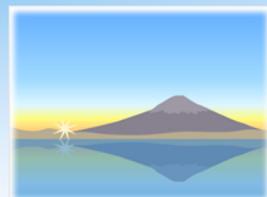


富士河口湖町立 教育センターだより

No.8



平成25年7月5日 文責 高尾久美子

第1回特別支援教育研究会 キーワードは“連携”

6月27日(木)第1回特別支援教育研究会を県立ふじざくら支援学校をお借りして開きました。

町内の小・中学校の先生方と、多くの保育園の先生方が参加してくださいました。

まずは、支援学校の芦沢先生が、校内の施設を案内してくださいました。それぞれの子どもたちに合った素晴らしい設備や工夫された掲示物などの中に、自分たちの学校や保育園などで、使用できそうな物が数多くあり、大変参考になりました。

その後、支援学校の地域支援部担当の菊池先生が、保・小・中連携の在り方についてお話しくださいました。「連携」という言葉が何回も出てきました。

(1) 日常における連携

- ・各園・各学校が顔を合わせる機会をつくること
- ・何気ない会話ができる関係をつくること
- ・学習会をもつこと

(2) 就学・進学時の連携＝引継ぎ

- ・送り出す園、送り出す学校からの情報提供
- ・迎える学校の聞き取り

(保護者・本人・送り出す園や学校・在籍校に出向いての観察 等)

連携をとって情報を共有することで、子どもたちの成長や自立につなげていきたいという願いがよく伝わりました。

先生方の感想にも「まずは知ることが大切。互いを知ることができて今回視察研修の意義があった。」「学校間の連携の方法がよくわかった。保・小・中としっかり連携していきたい。」「小・中学校の先生方の話が聞けてよかった。園内・学区内で連携していきたい。」とあり“連携”の大切をしっかりと学べた会でした。



パワフル荒牧先生！

「火山としての富士山」を語る！

6月29日(土)の教育講演会に多数の方々に御参加していただきありがとうございました。

80歳を超えているという荒牧先生の生き生きとお話している姿に、感心させられました。また、幅広い知識・人間味ある話し方・正直な受け答えに多くの方々が先生の人柄のよさを感じたのではないのでしょうか。

アンケートから「噴火に対して不安があったけれど、先生のお話から考え方が変わった」という意見が多かったです。

山梨県と静岡県が一つになって連携をとること。富士山は日本の富士山、世界の富士山であること。これから、環境保全・自然保護が大切であることなどひしひしと伝わってきました。

最後の映像で、富士山につけられたジグザグの道路跡が、痛々しく感じられました。富士山を守っていきたいと願った方々がたくさんいたのではないのでしょうか。これから、私たちが学んだことを、いかに子どもたちに教えていくか考えるよい機会でした。

荒牧先生、ありがとうございました。

